

III. コミュニケーションのためのサーバー構築

1. OS 及びデータベース環境

サーバーは、Windows2000 サーバーに IIS5.0 がインストールされ、MSSQL7(MSDE) が利用できる環境が既に構築されていることを前提に、設定方法を解説します。WEB コンテンツの内、アクセス記録をとりカウンターを表示する機能、意見を書き込む機能、および審査を行う機能にデータベースを使用します。

なお、上記の初期インストールを行った後、最新のサービスパック及びそれ以後のパッチを適用することが、セキュリティ対策上必要です。

2. インストール

(1) 雛形サイトのコピーと仮想ディレクトリの設定

WEB ページを格納するディレクトリを作成し、そこにコンテンツを格納します。まず、付録CDに収録した雛形サイトのコンテンツをコピーし、動作を確認した上で、必要に応じて、事業に対応したコンテンツに書き換えたり、ページを追加する方法が便利です。

なお、セキュリティ対策上は、Windows2000 をインストールした際にデフォルトで作成される WEB コンテンツのディレクトリ (c:\¥Inetpub¥wwwroot 以下) を使用せず、できればパーティションで切った別名称のドライブ等に、ユニークな名前のディレクトリを作成し、そこに、仮想ディレクトリを設定して、外からのアクセスを受ける方法が安全です。また、サブディレクトリには、日本語の名称等を使用できます。

IIS で、仮想ディレクトリを設定し、トップからアクセスできるようにします。

インターネット・サービスマネージャを起動し、WWWRoot をセレクトした状態で、[新規作成][仮想ディレクトリ]を選択し、ウィザードに従って条件を設定します。「読み取り」と「スクリプトのみ実行」のセキュリティ設定です。ユーザーが投稿したファイルを格納するディレクトリ等、書込みが必要な場合については、「書込み」を可とすると共に、「実行」を不可とします。安全のため、ディレクトリのセキュリティ設定で更に保護します。

サブディレクトリが日本語名称であっても、外からアクセスする仮想ディレクトリ名は、アルファベットと数字で構成する必要があります。

(2) カウンター、アクセス・ログのための設定

雛形のインクルード・ファイルのあるディレクトリの中に必要な機能が VBScript の関数として用意されています。

アクセス記録をとる場合、各ページの冒頭部分に

```
<%@ Language=VBScript %>
```

```
<!-- #include File="include/t_ServerVariableslog.inc" -->
```

の2行を追加します。

カウンタを表示する場合、</body></HTML>の前に、

```
<div align="right">          *註:カウンタを右寄せで表示する場合にこの行を挿入する
<!-- #include File="include/t_counter2.inc" -->
</div>
```

の3行を追加します。

以上により、このページに最初にアクセスが来た時点で、データベース上にこのページ
の名称でレコードセットが作成され、カウンタに1がセットされます。以後アクセス記
録が蓄積されていきます。

トップ・ページのみならず、資料集、画像、リンク集等、任意のページにこのような方
法で機能を追加することができます。

なお、このWEBページが機能するためには、ファイル名は、.asp としなければなりま
せん。但し、これらの機能を使用しない場合には、ファイル名を、通常の.htm, .html 等と
することができます。

留意すべき点として、ページ数が多く、一部のページをサブディレクトリに置かなけれ
ばならない場合に、上記のインクルードファイルが見えなくなる場合があるので、サブデ
ィレクトリにも、インクルードディレクトリをコピーする必要があります。

(3) データベースの設定

MSSQL7 がインストールされている場合、Enterprise Manager を起動して手動で設定
することもできますが、ワンパタンのテーブル構成を手動で設定して誤操作の危険を冒す
よりも、用意してある機能で設定する方法が勧められます。

まずデータベース作成機能を格納したファイルを、コピーします。このためには、
ss_GVNR¥dbmake 以下を、適当な場所に、コピーし、ここがインターネットからアクセ
スできるように、仮想ディレクトリを一時的に設定します。

インターネットからアクセスし、

dbmake¥dbmake.htm

を起動します。

必要なデータベース名を入力し、実行します。途中でエラーメッセージが出ても致命的
でなければ正常に作成されています。

安全のために、作業終了後、コピーしたデータベース作成機能を削除します。

トップページを2回表示し、下にカウンタが表示されることを確認します。

次に、(1) でコピーしたインクルードファイルの内、データベース名称を特定する部分
を、設定したデータベースと同じ名称に修正します。修正箇所は、カスタマイズ情報を集
約している tdb_user.asp の中の、

```
xdbname = "xxxxx"
```

の項で、ここを登録したデータベースと同じ名称に設定します。

(4) 管理者のためのパスワードの設定

市民等から寄せられた意見・提案などを一覧し、ダウンロードするページが、標準のインストールでは、

インストール先¥kanri

となっています。ここにアクセスする際に、パスワードを条件とするために、以下の設定を行います。

①まず管理者の名前を決め、OSでユーザーとして登録します。このためには、
[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[コンピュータの管理] を開き、
左のツリーから、システムツール¥ローカルユーザーとグループ¥ユーザーを選びます。
次に、メニューの [操作] [新しいユーザー] で、管理者が用いるユーザー名とその
パスワードを登録します。

②kanri のページに管理者のみがアクセスできるようにします。このためには、
スタート→プログラム→管理ツール→インターネットサービスマネージャ を開き、
左のツリーから、kanri のディレクトリを選び、これを右クリックし、プロパティで
「ディレクトリセキュリティ」のタブを選択します。
「匿名アクセス及び認証コントロール」の [編集] ボタンを押し、「認証方法」の編集
画面を開き、[匿名アクセス] のチェックを外します。

次に、エクスプローラで、このディレクトリを右クリックし、セキュリティの設定で、
先に設定したユーザーがこのディレクトリにアクセスできるように追加すると共に、
everyone、user 等がこのディレクトリを参照できないように設定します。

この操作により、<http://●●●サイト名●●●/kanri>

にインターネットからアクセスした場合に、アカウントとパスワードを入力する画面が
開きます。必要に応じて、管理のためのページがあるディレクトリ(kanri)に関して、
このアカウントだけがアクセスでき、一般ユーザー (IUSR_マシン名) ではアクセス
できないようにセキュリティを設定しておく、と、不用意に一般市民が管理のコーナーに
入らないようにできます。

③kanridoc の仮想ディレクトリを、doc の上に重ねて作成します。このディレクトリは、
ユーザーが画像や3次元データその他のファイルを意見に添付した場合に格納される、
docディレクトリについて、管理ユーザーが、リンクをたどってアクセスできるように
するために、kanridoc という仮想ディレクトリを設定します。これについても、匿名
アクセスを禁止し、読み出しのみを許可します。

一般ユーザーが、添付ファイルの URL を偶然アクセスし、表示することを避けるた
めには、仮想ディレクトリの doc については、書込みだけを許可とします。

(5) 管理の内容

管理のページには、投稿された意見などを取り出す機能が用意されています。管理のコ
ーナーから、「××事業アンケート」を選択すると、それまでに投稿された意見等が一覧で
表示されます。各意見の下にある、「●Text」をクリックすると、その意見について単独で

見ることができます。

一番上にある[タブ形式のテキストの作成]と[csv形式のテキストの作成]の上で、マウスの右クリック>”対象をファイルに保存”

と選択すればローカルファイルにダウンロードすることができます。このファイルを、表計算ソフトなどを使って整理したり集計することができます。また、適当に編集して、html形式のファイルを作成することにより、手動で掲示板のコーナーを作成することができます。後述の審査機能を使用する場合には、審査に合格した意見・提案などは自動的に掲示板に追加されます。

管理のページにある、「管理者ユーザー用ヘルプ」には、以上のような操作方法が詳しく説明されています。

(6) 終了時の処理

市民などから投稿された内容は、データベースに蓄積されていますが、添付ファイルなどは、doc サブディレクトリに蓄積されています。これを保存します。ログ・ファイルも保存する必要がある場合には、page_log サブディレクトリ（アクセスのログ）の内容、及び ankt_log サブディレクトリの内容も保存しておきます。

以上の保存処理を行った上で、まずデータベースを削除します。このためには、初期の設定において、データベース作成のために一時的に作成したのと同様に、

ss_GVNR¥dbmake 以下を、コピーし、ここがインターネットからアクセスできるように、仮想ディレクトリを一時的に設定します。

インターネットからアクセスし、

dbmake¥dbmake.htm

を起動します。ここから、データベースの削除のコマンドを実行します。次に、IIS で全ての関係する仮想ディレクトリ等を削除し、エクスプローラにて、関連するディレクトリを削除します。

3. 審査付提案受付機能

上記の基本機能では、一般市民からの意見・提案などは、全てデータベースに入力されます。利用する際には、管理者がパスワードを用いて、管理者のページに入り、ここから登録された意見等をダウンロードして、適宜編集した上で、掲示板などのコーナーを作成する方法となります。

これに対して、審査付きの提案受付機能を導入すると、提案等が届いた時点で、掲示の可否について審査員に依頼し、その結果に基づいて、合格した提案だけを自動的に公開・掲示することが可能になり、事務処理を軽減することができます。

このためには、以下の設定作業を行います。

(1) 必要ファイルのコピー

①まず、WEB ページを格納するドライブに、掲示板のディレクトリを作成し、必要なファイルをコピーします。例えば、Eドライブに

E:\掲示板

というディレクトリを作成したと仮定して、以下の話を進めると、CDの掲示板ディレクトリからコピーすることにより、この下に、

keiji

keijuser

という二つのサブディレクトリが作成されます。

次に、意見書などを格納するためのディレクトリとして、

E:\仮登録\keiji

E:\本登録\keiji

という二つのディレクトリを作成します。仮登録は、審査期間中に審査員に見せるためのコンテンツを置くディレクトリで、本登録は、審査の結果合格し、一般公開するためのコンテンツを置くディレクトリです。

②次にエクスプローラで、新しく作成されたディレクトリのセキュリティを設定します。一般に、初期状態においては、WindowsNT系OSにおけるディレクトリは、全く無制限（無防備）な状態にあります（everyone full-control 状態）。これに対して、インターネットからアクセスして来るユーザーは、IUSR_マシン名 というアカウントで、それぞれのディレクトリやファイルにアクセスして来ます。そこで、事項③に記した、インターネットサービスマネージャで仮想ディレクトリを設定したり、あるいは、その下にある既存のディレクトリのアクセス制限を課すことは可能ですが、OSのセキュリティ・ホールが存在する場合、あるいはシステムにバグがあった場合（例えば対話型のシステムにおいてユーザーからアップロードされたファイルの中に実行可能なものがあり、それがインターネットユーザーから実行可能な場所にあると、その実行可能なファイル（スクリプトや実行形式等）を手がかりにシステムを改変したり破壊することが可能になります。また、管理のための機能や、メンバーを限定してアクセス制限をかけようとする場合には、③で匿名アクセスを禁止した上で、特定のディレクトリに対して特定のアカウント（パスワード付）でアクセスできるようにする必要があります。このような場合にも、エクスプローラを用いて、ディレクトリのセキュリティを設定する必要性が生じます。

ここで、インターネット・ユーザーのアクセス条件に関して、整理しておきます。

<1>HTML ファイル、画像ファイルなど、ブラウザから直接アクセスするファイル

→IUSR の読み出し権限のみで十分

<2>ASP ファイルの実行

→ASP ファイルの格納先について IUSR の読み出し権限のみで十分

<3>ASP ファイルの動作として、新しいファイルを作成したり、新しいディレクトリを作成する場合

これは、動作する.asp ファイルが存在しているディレクトリに対して、IIS で設定したディレクトリに対するアプリケーションの設置によって異なります。

アプリケーション保護を「低」(IIS プロセス) とした場合：

→IUSR の読み出し、書き込み、ディレクトリ参照権限が必要

アプリケーション保護を「中」(プール) とした場合：

→IWAM の読み出し、書き込み、ディレクトリ参照権限が必要

<4>ASP ファイルにより起動されたデータベースが新しいファイルを読み書きする場合

→SYSTEM アカウントが読み書きの権限をもつ必要

<5>ASP ファイルにより起動された basp21 により、ファイル操作が行われる場合

<6> ASP ファイルにより起動された basp21 により、実行形式が起動される場合

→実行形式が存在するディレクトリに関して、IUSR または IWAM の実行権限が必要

このアカウントが IUSR となるか IWAM となるかは、IIS の設定において、当該仮想ディレクトリを右クリックし、プロパティ・シートの[仮想ディレクトリ]タブにおける「アプリケーション保護」の項が、「高」(分離プロセス) となっている(その場合 IUSR) か、「中」(プール) となっている(その場合 IWAM) かで決まります。通常は、トップにある「既定の WEB サイト」の「ホームディレクトリ」タブの「アプリケーション名」の項に指定された「既定のアプリケーション」が、そのまま以下の仮想ディレクトリに継承されています。この「既定のアプリケーション」の内容は、例えば、「XXX.asp」という WEB 頁が要求されると、この中にリストされた、`¥asp.dll` に処理が渡され、その結果がブラウザ側に返されて表示される、という処理の流れを定めています。下位の仮想ディレクトリにおいては、アプリケーション名を定めないか、定めても内容を修正しない限り、この上位のルールが継承されています。構成を修正した上で、独自の名称を与えると、その仮想ディレクトリに関して、処理の流れをカスタマイズすることができます。既定のルールにおいては、「アプリケーションの保護」は、「中 (プール)」となっています。

なお、basp21 で起動されたプロセスが、ハングアップした場合、アドミニストレータでも停止させることはできません。例えば、エラーメッセージをダイアログで出すようなプロセスが、「OK」待ちの状態で停止しているような場合です (basp21 から起動された場合には、裏で動いているのでどこにも表示は出ません)。このような場合、サーバーを再起動しなくとも、IUSR または IWAM のアカウントでログインして、タスク・マネージャでプロセスを殺すことにより再生することができます。但し、これを行うためには、ユーザー・アドミニストレータで IUSR にパスワードを設定する必要があります。パスワードを設定しても、インターネットからのアクセスには特に支障は無いようです (要確認) が、もし発生するようなら、作業終了後、パスワードを削除します。IWAM に対して、軽率にパスワードを変更してしまうと、IIS が使用しているパスワードを知ることが面倒であるため、それとシステム (ユーザー管理) で設定するパスワードを一致させることが困難となり、修復が大変になります。

念のため、IWAM のパスワードが判らなくなった時のために、これを知る方法を、下記に記しておきます。

1. 以下のスクリプトを作成し、管理者の WEB サイトのあるディレクトリに置きます。

(デフォルトでは、c:\winnt\system32\inet\iisadmin

Test.asp

<%

Dim VSvrObj

Set VSvrObj = GetObject("IIS://LocalHost/W3SVC")

Response.Write "WAMUserName = " & VSvrObj.WAMUserName & "
"

Response.Write "WAMUserPass = " & VSvrObj.WAMUserPass & "
"

%>

2. IIS で管理者用 WEB サイトを開始します。

3. ブラウザで、

<http://localhost:8013/test.asp> にアクセスすると、

WAMUserName = IWAM_SIMSERVER

WAMUserPass = v4J1U0HaiV-7Sx

のように表示が出来ます。

この 1 行目が IWAM のアカウント、2 行目が、IIS 導入時に設定された IWAM のパスワードです。

4. コンピュータの管理—ユーザーの管理で、IWAM アカウントに対するパスワードを修正します。

5. 念のため、上記の test.asp を削除し、管理者の WEB サイトを停止しておきます。

[リスト III-1] IWAM パスワードを調べる方法

なお、IWAM のパスワードを変更する場合には、サーバーの[管理ツール]の[コンポーネント・サービス]を開き、左ペインのツリーから、[コンソールルート][コンポーネントサービス][コンピュータ][マイコンピュータ][COM+アプリケーション][IIS Out-Of-Process Pooled Applications]を右クリックしてプロパティ・シートを開き、[ID]タブにて設定します。同時に、OS に登録されているアカウント「IWAM_コンピュータ名」も設定します。
<7>ASP ファイルにより起動された basp21 により起動された実行形式が、ファイル操作を行う場合

→操作されるファイルが存在するディレクトリに関して、「IWAM_コンピュータ名」による、対応するファイル操作の権限が必要です。なお、IWAM アカウントは、IUSR と共に IIS のインストール時に作成されるアカウントで、フルネームが「IIS プロセス アカウントの起動」、説明が「処理外のアプリケーションを開始するための、インターネット インフォメーション サービスのビルトイン アカウント」となっています。

<8>ASP ファイルにより起動された basp21 により cmd.exe が起動されてファイル操作等を行う場合

→実行形式の存在場所がフルパスで指定されていた場合、そのルートからそこに至る中間の全てのサブディレクトリに関して、実行権限を設定する必要があります。

<9>サービスがファイル操作等様々な処理を行う場合

→SYSTEM による権限が必要

操作的には、上記の kejiuser を右クリックし、プロパティからセキュリティを選択します。インターネットからのアクセスは、USER_コンピュータ名 というアカウントとなるため、このアカウントに対して、読み取りと書き込みのみを認めるようにします。

<10>データベース(MSDE)のファイルが置かれるディレクトリ

データベースの作成・削除の時点では、SYSTEM アカウントによる書込・読取・フォル

ダの内容の一覧の機能が必要。また、通常の運用（内容の更新）においては、SERVICE アカウントによる書込・読取の機能が必要です。

③keiji 以下のディレクトリがインターネットからアクセスできるように、仮想ディレクトリを設定します。このためには、スタートボタン→管理ツール→インターネットサービスマネージャを起動します。

次に、WWWルートを選択し、[操作][新規作成][仮想ディレクトリ]で、keiji という名前の仮想ディレクトリを、上記の keijuser に対して設定します。この keiji の下に、kanri という仮想ディレクトリを作成し、上記の keiji に対して設定します。

keiji ディレクトリに対しては、一般のアクセスを禁止する場合、簡単には、そのディレクトリを右クリックし、プロパティからディレクトリセキュリティを選択します。ここで IP アドレスとドメイン名の制限の [編集] ボタンを押し、規定では全てのコンピュータからのアクセスを「拒否する」に設定し、例外として、LAN 内部等からこのコンピュータに管理用にアクセスするコンピュータのみを許可します。

注意しなければならないのは、内部からファイアウォール等を介してアクセスする場合には、管理に使用するコンピュータの IP アドレスではなく、ファイアウォールの IP を設定する必要がある場合があることであり、その場合、そのファイアウォールを介してアクセスする全て（不特定多数）のコンピュータからアクセス可能となるため、別途②によりアカウントとパスワードを設定する必要となる可能性があります。

FTP により、コンテンツを改定しようとする場合も、ほぼ同様の方法で設定が可能です。この場合、コンテンツを置くディレクトリの上に、HTTP とは別に、FTP の仮想ディレクトリを指定します。コンテンツを更新する場合だけではなく、アクセス・ログ(通常、WINNT¥SYSTEM32¥LOGFILES¥W3SVC の下に作成される)や、データベースのログを調べる場合にも、FTP を用いることができます。また、インターネットにより寄せられた意見、提案などを、FTP でバックアップすることも可能です。

(2) 審査条件の設定

① def.csv ファイルを編集します。設定・修正する主な項目は、

A1 プロジェクト名：例えば KEIJI とする。同じサーバーに二つ以上の審査機能付のサイト、あるいはデータベースを用いた機能を構築する場合、この名称がデータベース名に使用されるため、ユニークな名称である必要があります。

A2 巡回時間：1日1回巡回する場合、その時刻を設定します。公開開始前に試験運用する場合には、例えば5と入力すると、5分間隔で巡回が行われます。

A3 審査委員数：それぞれの案件に対して、何人の審査員を依頼するかを設定します。

A4 審査期間日数：審査を依頼してから締め切りまでの日数を設定します

A5 督促開始残日数：締め切りが迫ったときに督促を行う場合、何日前から行うかを設定します。

A6 仮公開用コンテンツディレクトリ：①で作成した、E:¥仮登録¥keiji に設定します。
A7 本公開用コンテンツディレクトリ：①で作成した、E:¥本登録¥keiji に設定します。
A8 メールサーバーホスト名：審査員への依頼状などを電子メールで発送するためのメールサーバーのURLを設定します。

A9 MailFrom 審査員への依頼状などの発信元として記入するメールアドレスを設定します。

A10～14 は、依頼状等の雛型のファイルを指定します。このままの名称を用い、各ファイルの内容を編集する場合には変更する必要はありません。

A10,,s:¥確認¥kakunin¥tehaishi¥IraiMailTemplate.txt

A11,,s:¥確認¥kakunin¥tehaishi¥TokusokuMailTemplate.txt

A12,,s:¥確認¥kakunin¥tehaishi¥GoukakuMailTemplate.txt

A13,,s:¥確認¥kakunin¥tehaishi¥FugoukakuMailTemplate.txt

A14,,s:¥確認¥kakunin¥tehaishi¥SaishinsaMailTemplate.txt

AR 参照審査委員が登録されているテーブル(TB_linkai)のあるデータベース名を指定します。上記 AR アイテムの指定がない場合は、参照審査委員は、A1 アイテムで指定される、データベース名内の TB_linkai を使用します。

A21,editor.exe を使用する,no,KEIJI

審査システムでは、通常は、長い様式を想定して、ユーザーはエディターを用いてローカルな作業環境で様式に従ったテキストファイル(com.txt)を入力し、投稿段階でこれを添付することを想定しています。しかし、掲示板や簡単なアンケートなど、WEB ページの FORM で事足りる場合があります。そのような場合には、受け付けたサーバー側で、FORM 情報を元に、com.txt を作成して処理します。ここで no を指定すると、エディターを使用しない、という選択になります。更に、使用しない場合、どのような様式の FORM を用いるかを、次のキーワードで指定しています。現在の所、KEIJI, JINJI が実装されています。

A22 データベースのサーバーのアドレス(URL)を設定します。

A23, DBデータファイル名を設定します。ここに設定した値を用いて、次のステップで自動的に新たなデータベースを構築します。

A24 lha32 ファイル名

A25 審査お断り期間日数

審査依頼を受けた審査員が、審査を断る旨の回答を寄せる期限

A26 審査お断り ASP ファイル名

審査を断る旨の回答を書き込むページのファイル名

A27 審査結果 ASP ファイル名

審査を行った結果を記入するページのファイル名

A28 メールサーバーホスト名

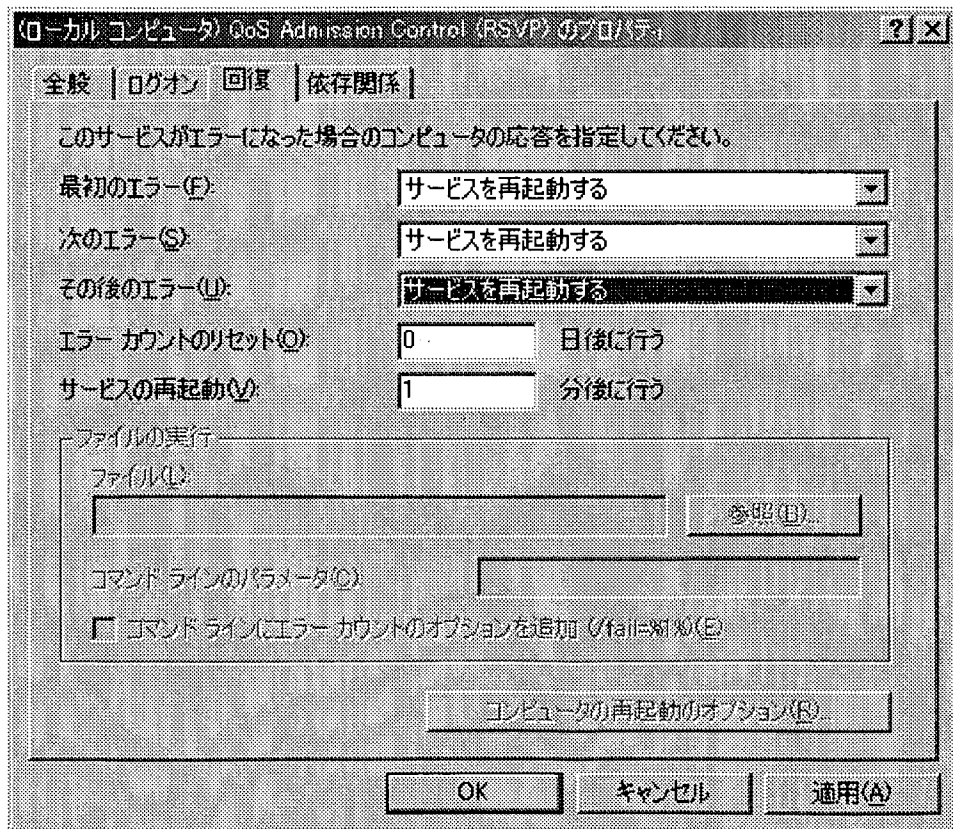
審査依頼を発信するメール・サーバ (IP アドレス)

以上の作業によって作成した def.csv ファイルを、システムが理解できるように、def-csv.txt ファイル、及び cfg.txt ファイルに、格納場所を登録します。

② 審査員の名簿を入力します。このためには、tehaishi¥inkai.csv を編集します。

③ tehaishi サービスを登録します。

このためには、Keiji/tehaishi/TehaishiServiceConfig.exe を実行します。これでサービスとして登録されますが、万一のバグなどによりサービスが落ちた場合の処理などは設定されていません。そこで、[コントロールパネル][管理ツール][サービス]を起動し、登録されたサービスを選択・右クリックし、プロパティ・シートの「回復」タブを開き、最初のエラー、次のエラー、その後のエラーについて、「サービスを再起動する」を選択しておきます。これを行わないと、エラーでサービスが停止した場合、システムを再起動するか、またはこの[サービス]で手動にて開始するまで、審査機能が停止したままとまります。



【図 III-1】サービスの回復条件の設定

④ 圧縮された添付ファイルなどを解凍するために、lha をセットアップします。

このためには、UNLHA32.dll をインストールします。これは例えば、

<http://www2.nsknet.or.jp/~micco/unlha32.htm>

から最新のインストーラをダウンロードして実行します。これにより、keiji/tehaishi の下にある LHA32.exe が実行可能となります。

⑤ basp21 をセットアップします

keiji/basp21 の下にあるファイルを用いてセットアップします。

次に、プロジェクト固有の情報（名称等）を必要なファイルに対して設定します。

⑥ A10 で指定した、審査依頼文の雛型 ItaiMailTemplate.txt を修正

⑦ A11 で指定した、審査結果回答の督促文の雛型 TokusokuMailTemplate.txt を修正

⑧ A12 で指定した、合格通知メールの雛型 GoukakuMailTemplate.txt を修正

⑨ A13 で指定した、不合格通知メールの雛型 FugoukakuMailTemplate.txt を修正

⑩ A14 で指定した、再審査通知メールの雛型 SaishinsaMailTemplate.txt を修正

次に、受付頁などをデザインします。

⑪ 意見受付頁 keijiuser/HP_toukou.asp の文面を修正

⑫ 審査結果回答頁雛型 keiji/HP_SinsaAspTemplate.htm の文面を修正

（３）審査対象の帳票データ構成の設定

帳票データは、（２）と同じ def.csv ファイルの、C項目（分類項目）、M項目（見出し項目）、V項目（画像情報等）の項目の設定により定義されています。これらを編集することにより、帳票を定義することができます。具体的には、M x xの項目に、名称とデータ型を定義します。

（４）審査機能付き掲示板のためのデータベースの設定

このためには、<http://サーバー名/KEIJI/KANRI/index.asp> にアクセスし、データベースの作成を選択します。先に def.csv に定義したのと同じ名称のデータベースを設定し、実行します。成功／失敗のメッセージが表示されます。

（５）審査員名簿を審査付きで追加登録可能とする方法

審査員を追加登録する手続きは、意見書を審査するのと殆ど同じ仕組みで実現可能です。このためには、提案受付機能と同時並行で審査員の推薦受付機能を審査付きで走らせ、ダイナミックに追記される審査員のデータベースを用いて提案受付を行います。審査員の推薦を審査する審査員の名簿は、提案を審査する審査員名簿と同一であっても、あるいは異なっても構いません。

意見書の審査に際して、固定の名簿ではなく、審査員の審査付追加登録機能で動的に管理される審査員に依頼しようとする場合、この審査員の審査プロジェクトのデータベース名称を、def.csv の AR 項目として指定します。この指定がない場合、A1で指定された固定の審査員名簿により審査が行われます。なお、審査員の審査プロジェクトにおける def.csv の AR 項目は、この審査員を審査する審査員の名簿を動的に管理する場合の審査員プロジェクトに名前に設定すると、審査員を審査する審査員の名簿も動的に管理されます。

（６）景観データベースへのネットワークによる追加登録の方法

各事業別のコンテンツを作成する中で、ストリート・ファニチャ等、別のプロジェクト等で再利用できる部品が派生する場合があります。このような部品については、積極的に登録することが望ましいでしょう。ネットワークで動作する景観シミュレータで景観構成要素を検索する場合、常に最新の目録から検索するようになっているため、オンラインで構成要素を登録すると、直ちに利用できるようになります。但し、不完全なデータ、重複するデータ等、直ちに公開することが不適切なデータが登録されることを排除するために、提案として受け付けた上で審査員に審査を依頼し、合格した案件だけを登録するようにしています。このプロジェクトを独自に立ち上げたい場合には、JIREI のコンテンツ一式を、意見書受付と同じようにインストールすることで利用可能となります。なお、意見書と異なる点は、C項目、M項目、V項目が多数設定されているため、WEBページから帳票型のデータを直接入力することは現実的でないため、editor.exe という入力専用エディタを用いて入力された帳票データ com.txt を添付する方法で、エントリする点です。

(7) 審査機能の簡易セットアップのためのインストーラ

特に、まちづくり・コミュニケーションの運用の中で効果が高いと考えられる掲示板について、簡便にセットアップするためのインストーラを作成しました。これを使用することにより、必要なフォルダーの作成、プロジェクト名称等のカスタマイズの作業、及び WindowsNT によるディレクトリのセキュリティ設定が自動的に実行されます。あとは、IIS の仮想ディレクトリ等を設定し、ホームページからのリンクを設定するだけでインストール作業を完了することができます。

インストールの操作は、インストール用ファイル一式が格納されたディレクトリ (CD 内容解説参照) から、SetDefFile.exe を実行し、表示された以下のメニューに必要な項目を入力した上で、OK ボタンをプッシュします。

The screenshot shows a dialog box titled 'SetDefIis' with the following fields and values:

- インストール先ドライブ: D
- プロジェクト名(全角): △◇掲示板
- プロジェクト名(半角A-Z): BB31
- IISがインストールされているマシン 上記のIPアドレス: 210.10.74.71
- 審査委員数(0の場合は無条件合格): 2
- 審査期間(日): 5
- 督促開始日数(日): 2
- 審査お断り期間日数(日): 2
- 巡回時間: 01:23
- メールサーバアドレス: 10.194.30.3
- メール差出人メールアドレス: jimuj@projectx.somecity.jp

Buttons for 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) are located at the bottom.

【図 III-2】 審査機能のインストーラによる設定

上記の例に倣って、掲示板を敷設するプロジェクト名称（例えば「◇◇地区再開発事業」等を設定して下さい。掲示板の表示や、審査依頼メールにはこれが使用されます。また半角 A-Z の名称は、WEB アドレスにアクセスするためのものです。ここで設定したのと同様の名称が、<http://サーバ名.サイトURL/この名称> 以下でアクセスできるように IIS も設定して下さい。なお、IP アドレスは、審査員などが投稿内容を審査するための WEB ページを参照するためのものですので、外部からこのサイトにアクセスするための URL とします。また、メールサーバアドレスは、このマシンからアクセス可能な IP アドレスを指定します。

なお、IIS の設定は現在まで、まだ簡単に自動化することができなかったため、前の記述に従って、仮想ディレクトリの定義と、セキュリティ設定などを手動で行う必要があります。

(8) 審査機能の管理

審査機能に関しては、下記の管理機能が用意されています。審査機能の開発にあたっては、特権的にシステム設定を自由に変更できる「管理者」の存在を極力排除し、プロジェクト開始時点から終了時点までの間は、全て外部のユーザーからのアクセスによってのみ、

システムが運用されることを目標としています。即ち、そこには、投稿して閲覧する一般ユーザー（市民）と、投稿内容を審査する審査員（専門家）のみが存在し、事務局的な機能は無人運転されることを目標としています。外部に審査委員会などを設置せず、役場の担当者が審査を一手に行う場合であっても、それは「担当者1名から成る審査員会」として処理されています。

従って、下記の機能は、基本的には、プロジェクト開始時点、及びプロジェクト終了時点でのみ用いられる機能です。しかし、万一システムダウンなどの状況が生じる場合があります。また、社会的エラーとして、審査に合格し掲示された案件を掲示し続けることが著しく不適切であるような事態が生じた場合にのみ利用するものです。従って、サーバーの設置してあるバリアーセグメント等からのみ利用できるように設定しておくか、あるいは非常事態が生じた場合にのみサーバーの設定変更を行い利用するのが望ましいでしょう。

①旧 com.txt を読み込んで DB に挿入します

これは、プロジェクトを開始した直後の状態（投稿された意見などがまだない状態）において、初期条件として投稿済みの内容を一括して設定する場合に使用します。②の機能を用いてバックアップや終了時の保存を行った場合に作成される、com.txt というファイルには、全ての投稿内容が含まれています。これを、①で登録することにより、複数の意見などを一括して登録することができます。この機能により投稿された内容に関しては、自動的に合格登録されるため、審査員に審査依頼が行くことはありません。

②データベースの情報を com.txt に復元します

これは、プロジェクトの中間段階もしくは終了時点において、それまでに投稿された内容を一括して保存する場合に使用します。保存する内容は、合格した案件、再審査となった案件、不合格となった案件、全ての案件の4択から選ぶことができます。

③データベースを作成します

これは、プロジェクト設定段階で使用します。

④データベースを削除します

これは、プロジェクト終了段階で使用します。

⑤掲示板 案件削除ページ

これは、やむを得ない理由により、不合格・再審査となった案件を合格として掲示板に表示したり、逆に合格として掲示板に掲載されている案件を不合格に変更して参照不能にする機能です。通常は、合格・不合格の判定は、ルールに基づいて審査員により判定されますので、このページにアクセスできる特権的なコンピュータ技術者などが、まちづくりに関する専門家による審査結果を変更できることは、あってはならないことです。削除するか、システムの危機管理的な機能と考えて運用して下さい。

⑥ログの確認

データベースの作成・削除、意見の投稿、審査結果の受理その他、データベースの変更に係る事象が記録されています。これも危機管理的な機能です。

⑦最新の仕様

これは、データベースの共通仕様に係る情報です。プロジェクトにより変更されることはありません。危機管理的な機能です。

⑧def.csv の参照

これは、当該プロジェクトののためにカスタマイズされた設定ファイル（しかし多くの項目は、デフォルト値がそのまま用いられている）を参照する機能です。危機管理的な機能です。

⑨ヘルプの参照

システム設定上の情報を参照するための、危機管理的な機能です。

(9) プロジェクト終了時の処理

プロジェクト終了時には、以下の処理を行います。

- ① データベース内容の保存：(8) ②の処理を行い、登録内容をテキストファイル (com.txt) としてファイル保存します。
- ② 添付内容の保存：仮登録サブディレクトリ(審査未了の案件)の内容、及び本登録サブディレクトリ(審査の結果合格した案件)の内容を保存します。
- ③ ログの保存：データベース変更に係る、投稿、審査結果通知その他の記録は、仮登録サブディレクトリの下 ServerLog の中に保存されています。この他に、定時処理の内容が、巡回サブディレクトリの中の Log の下に保存されています。
- ④ def.csv の保存
プロジェクトの設定条件を情報として残すためには、このファイルを保存します。
- ⑤ 巡回サービスの削除
[プログラム][管理ツール][サービス]で、サービス・マネージャを起動し、本プロジェクトの名前を持つサービスを停止します。
巡回サブディレクトリの下にある、del.bat を実行します。
- ⑥ データベースの削除：(8) ④の機能を使用します。誤って別のプロジェクトのデータベース等を削除しないように慎重に操作して下さい。
- ⑦ 仮想ディレクトリの削除：IIS を起動し、プロジェクトに関連して作成した仮想ディレクトリ等を削除します。
- ⑧ ディレクトリの削除：エクスプローラを起動し、当該プロジェクトに関連するディレクトリを削除します。
- ⑨ basp21、lha32 等のアンインストール：他のプロジェクト等に使用しない場合には、コントロールパネルのアプリケーションの追加と削除で、削除します。